

よりよい社会にしていくために、自分には何ができるかを考えるには、社会的事象に対して自分なりの考えを明確にもつことが不可欠である。そのために、仲間と議論し、自分の言葉で表現する機会を積み重ねることで、自分なりの考えを明確に主張できるようにすることを旨とし、年間を通じて指導した実践を紹介する。

**POINT 1** 年間指導計画

よりよい社会にしていくために、自分にできることは何かを考え、自分の言葉で表現することを旨とした年間の指導

**議論する機会を多く設け、自分の言葉で表現する経験を積み重ねることが、社会的事象を自分事にする**

「公共」で取り扱う教材は、高校生にとって身近なものばかりではない。これらの社会的事象に対して、自分事として考えるために、周囲の仲間と議論する機会を多く設け、自分なりの言葉で表現する経験を積み重ねた。

【年間指導計画における大項目の指導の重点】

月	単元
4	大項目A 「公共の扉」
5	
6	大項目B 主として法に関わる事項 主として政治に関わる事項 主として経済に関わる事項
7	
8	
9	
10	
11	大項目C 「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」
12	
1	
2	
3	

**大項目Aにおける指導の重点**

- ・「公共」の導入にあたって、社会事象の抽象的な概念を具体的な生活場面に当てはめて自分なりに考えることで、「自分事にする練習」を重ねる。
- ・毎時間の授業前後、そして「公共の扉」前後で、問いに対する考えの言語化をすると共に、これを通して自身の社会に対する考えの変化に気付いていく。

**大項目Bにおける指導の重点**

- ・教科書に示されている事例だけでなく、時事的な問題を取り上げ、議論し、自分なりの考えを述べる。これにより、学習している内容が、自分が生活する社会とどのようにつながっているのかを実感し、社会の問題を自分事にしていく。
- ・大項目Cの探究を見据え、大項目Bの学習における議論では、「立場によって考え方が異なる」ことが体感できるような議題の選定や議論の方法を意図的に取り入れる。これにより、他者と議論しながら、自分なりの考えを明確にしていく経験を積んでいく。

**大項目Cにおける指導の重点**

- ・よりよい社会にしていくために、国際的な社会課題に対して、自分にできることは何か、国や社会としてできることは何かを探究し、自分なりの言葉で表現することを旨とする。

**実践者に聞く！ エピソード紹介**

●「自分なりの言葉で表現する」ことを徹底的に積み重ねる一年間  
一年を通して、授業の始めと終わりに「自分なりの考えを言語化する」活動をしています。毎時間行うことで、少しずつ社会的事象に対する問題意識や、自分なりに考える習慣が身に付き、これが大項目Cの探究的な学びにつながります。また、仲間と議論する機会を多く設けることも工夫しています。大項目Aでは身近な事例を、大項目Bでは時事問題などを題材に、話し合う活動を多く取り入れています。このような経験を積み重ね、「自分の考えを人に話す、言語化する」ことを通して、大項目Cの探究において、「よりよい社会にしていくために、自分にできることは何か、を自分なりの言葉で表現する」ことにつなげています。

**単元計画**

『日本・私たちは国際社会の中でどのような役割を果たすべきだろうか？』

■ 単元の目標

【知識及び技能】

国際社会が直面する解決が求められる問題について知り、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解する。

【思考力、判断力、表現力等】

国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について、国際社会が抱える様々な課題解決に向けて、協働して多面的・多角的に考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

【学びに向かう力、人間性等】

よりよい国際社会の実現を視野に、国際社会における様々な問題に対して主体的に追究・解決しようとする態度を養うと共に、各国が互いを尊重し合って合意形成したり、協力し合ったりすることの大切さについての自覚などを深める。

■ 単元計画

単元を貫く問いとして、『日本・私たちは国際社会の中でどのような役割を果たすべきだろうか？』を設定。単元の導入で、国際社会が直面している現状について捉えてから、毎時間、具体的な問題の一つずつ取り上げ、自分たちなりに解決方法を議論する学習を通して、考えを表現する経験を積み重ねた。

時数	学習内容
8	● 単元を貫く問いの提示 『日本・私たちは国際社会の中でどのような役割を果たすべきだろうか？』
	① 国同士がよい関係を築くにはどのような決まりが必要だろうか？ ・ 国家主権などに関する国際法の意義 ・ 国際連合をはじめとする国際機構の役割
	② 領土をめぐる問題を解決するためには？ ・ 領土（領海、領空を含む。） ・ 固有の領土竹島、北方領土
	③ 国際的な衝突を解決する方法は？ ・ 冷戦下の国際社会 ・ 国際社会の変遷
	④ 人種、民族問題を解決する方法は？ ・ 人種、民族問題 ・ 難民問題
	⑤ 核兵器をなくす方法は？ ・ 我が国の安全保障と防衛 ・ 軍縮問題、核兵器
	⑥～⑧ 日本・私たちは国際社会の中でどのような役割を果たすべきだろうか？ ・ 外交政策（⑥） ・ 国際経済格差の是正と国際協力（⑥） ・ 未来を見据えた我が国と自分の役割の探究学習、振り返り（⑦-⑧）

国際社会の平和や安全のために存在するルールや国際的な機構・組織について、基本事項と現状の問題を知り、解決が難しい現状を捉えてから、単元の学習をスタートする。

2時間目以降、国際社会における具体的な問題に対して、自分たちなりに考えていく。毎時間、自分たちで「解決するためには、どのようにしたらよいか」について検討する問いを設定し、自分なりの考えを言語化する場を積み重ねていく。

現在も解決できていない時事問題として「難民問題」を扱う。日本との関わりについても取り上げ、国際的な問題を自分事にする。

これまで学習した国際的な問題について、自分が最も関心のあるもの一つを選び、「我が国と自分の役割」というレポートを書く（探究課題）。

※ ○数字は、各授業（50分）を示す。  
※ □のピックアップ授業詳細は、次頁。

# Pick Up! >> 中心となる授業展開

領土を題材に国際法についての学習を行った。領土という現実社会の事柄や課題を基に竹島問題に着目し、ジグソー法を用いて、資料に基づく対話型の授業について考えた。

## ■ 本時のねらい

- 日本の領土である竹島について考えることを通して、領土をめぐる問題は、平和的に解決するために継続的な努力が必要であることを捉える。

## ■ 本時の展開

(50分)

過程	学習内容	指導上の留意点
導入 10分	<p><b>○日本の領土はどこまでだろう？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>竹島の写真を提示し、何の写真かを問いかける。</li> <li>何県か、位置、面積など、基本的な情報を地図帳で確認する。</li> </ul> <p>・日本の領土であること、竹島をめぐる問題が生じていることなどの既習事項を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の学習内容を振り返り、知識の前提をそろえる。</li> <li>他の領土をめぐる問題を合わせて確認する。</li> </ul>
展開 30分	<p><b>○領土をめぐる問題を解決するためには？</b></p> <p>①竹島をめぐる問題について、どのように平和的な解決ができるか考える。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校までの知識を基に、どのように解決できるかを考える。</li> <li>3人グループで共有を行う。</li> </ul> <p>②グループで、準備した3つの資料について分担を決める。</p> <p>【エキスパート活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教室内で資料ごとのエリアに分かれ、資料を読み込む。(10分)</li> </ul> <p>③グループに戻り、分担して読み解いた資料の内容を共有する。(10分)</p> <p>【ジグソー活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1.自分の資料について説明する。</li> <li>2.日本の領土であることの正当性を確認する。</li> <li>3.どのように平和的な解決に向け、努力できるか、グループの考えをまとめる。</li> </ul> <p>④各グループの考えを全体で共有する。(5分)</p> <p>【クロストーク】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①の話し合いは、「平和的な解決のためには努力が必要だ」と認識することをねらうため、短時間で進行。</li> <li>エキスパート活動では、分担した資料について、グループに帰ったときに、責任をもって説明できるようにするために、同じ資料を担当する生徒同士で読み深める時間を設ける。</li> <li>多くの場合、「きちんと話し合う」などの考えが出される。「きちんと」とは、どんなことなのかを明確にしていく。</li> </ul>
まとめ 10分	<p><b>○わかったこと・考えたこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>領土をめぐる問題について、平和的な解決に向けてどのように努力していくべきか、授業を通して考えたことをまとめる。</li> </ul>	

竹島の俯瞰写真を提示し、「具体的に知っている」ことを確認することで、この後の授業で活用する資料への興味を高める。

生徒の中には明確な考えをもつことが難しい場合もあるが、知識の不足などに気が付き、授業前後の深まりにつなげることが目的であるため、長時間にする必要はない。

生徒が話し合っている最中に思考を遮ることがないように、ワークシートに3つの指示（【ジグソー活動】の1、2、3として記載した手順）を明示しておくなどして、主体的に活動できるようにする。これにより、グループ活動を深めることをねらう。

竹島を題材に平和的な解決に向けて考えたことを通して、我が国の「領土をめぐる問題」について、考えをまとめる。

# POINT 2 外部連携

## 外部機関の活用ー『Web竹島問題研究所』

### 生徒の「もっと知りたい!」「なぜ?」をメールで質問

本実践では、領土をめぐる問題について議論を通して自分なりの考えを構築していくため、竹島を題材として扱った。

「竹島をめぐる問題について、どのように平和的な解決ができるのか」を考えるための資料として、『Web竹島問題研究所』のサイトで公開されている情報から、オリジナルの資料を作成した。そして、資料を活用した授業の後、生徒から質問事項を集め、島根県の竹島資料室へメールで送付し、回答・解説を依頼する双方向の授業を行った。

#### ● アンケートフォーム・メールの活用

生徒からは、「もっと知りたいこと」「疑問に思ったこと」を1人1台端末を活用してアンケートフォームで回収。データを整理し、資料室へ回答・解説を依頼した。



#### 実践者に聞く! エピソード紹介

#### ● 問題意識を高める「外部機関に、直接訊く」

いつものようにワークシートを活用しながら授業を進めていく中で、「先生がこの資料を準備した時に参考にした資料室に、メールで質問を送ることができるみたいだけれど、どう?」と生徒に投げかけると、生徒の顔がバツと上がり、想像以上に多くの質問が出てきました。このため、生徒同士で話し合いながらまとめた複数の質問を資料室に送付することにしました。その結果、後日、資料室から丁寧な回答をいただくことができました。



アンケートフォームで質問を回収



回答・メッセージを提示

資料室からの回答を生徒にフィードバックしたところ、「自分が考えた解決案を直接ぶつけてみたことで、なぜ解決しないのか、はじめてその問題の複雑さに気付くことができた。」「すぐに解決することができないけれど、考えることをやめないことが大切だと思った。」などの声が聞かれました。